

GHG 排出量の算定方法

東銀リース株式会社

【スコープ 1】

1km あたり CO2 排出量 (kg) 算定式 = 走行距離 km ÷ 燃費 km/ × GHG 排出係数 2.322kg-CO2/

【スコープ 2】

CO2 排出量(年間) = 年間の電力使用量 × CO2 排出係数 (1kWh あたりの CO2 排出量)

【スコープ 3】

カテゴリ	算定方法	排出原単位 (データソースは【】内に記載)
1	<ul style="list-style-type: none"><li>● 対象年度に検収したリース・割賦販売用の物件の購入金額から物件の製造に必要な排出量を算定。</li><li>● 対象年度の販売費及び一般管理費のうち、製品・サービスの購入金額から当該製品・サービスの製造に必要な排出量を算定</li></ul>	産業連関表ベース (製品・サービスの購入金額あたり) の排出原単位 【「外部公表 DB」( 1 )】
2	対象年度の固定資産の新規取得額から、当該固定資産の建設・製造及び輸送において発生する排出量を算定	資本財価格当たり排出原単位 【「外部公表 DB」( 1 )】
3	スコープ 1,2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動に伴う排出量をエネルギー使用量ベースで算定	燃料調達時の (購入した燃料の資源採取段階から輸送段階まで) 排出原単位 【「外部公表 DB」( 1 )】

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年度中に購入した物品の重量（リース・割賦販売用の物件を除く）を消費した重量と同等推計して算定</li> <li>● 上記物品がサプライヤーから当社に輸送される際の輸送距離は一般的な国内輸送シナリオの最長距離に基づき一律 1,000km に設定</li> </ul>	<p>トンキロ法を用いた排出原単位</p> <p>【「外部公表 DB」( 1)】</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年度における産業廃棄物発生量から廃棄物の輸送、処理に伴う排出量を算定</li> <li>● 対象年度における一般廃棄物発生量から廃棄物の輸送、処理に伴う排出量を算定</li> </ul>	<p>廃棄物種類・処理方法別の排出原単位</p> <p>【「外部公表 DB」( 1)】</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年度の出張交通費及び対象年度の出張宿泊費から出張に伴う排出量を算定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通区分別交通費支給額当たり排出原単位</li> <li>● 産業連関表ベースの（製品・サービスの購入金額当たり）排出原単位（宿泊業）</li> </ul> <p>【「外部公表 DB」( 1)】</p>
7	<p>対象年度の通勤費支給額から通勤に伴う排出量を算定</p>	<p>交通区分別交通費支給額当たり排出原単位</p> <p>【「外部公表 DB」( 1)】</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年度に検収したリース・割賦販売用の物件の総重量（推計値） 2 から当該物件の最終消費地までの物流に伴う排出量を算定</li> <li>● 上記物件がサプライヤーから顧客に輸送される際の輸送距離は一般的な国内輸送シナリオの最長距離に基づき一律 1,000km に設定。</li> </ul>	<p>輸送トンキロ当たり排出原単位</p> <p>【個別車種のカatalogデータ及び「外部公表 DB」( 1)】</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年度に売却した物件の購入金額及び対象年度に売却した物件の売却後稼働年数（物件の法定耐用年数等に基づく推計値）から当該物件の売却後の稼働に伴う排出量を算定</li> </ul>	<p>売却した物件の稼働時の排出原単位 3</p> <p>【個別資産のカatalogデータ及び「外部公表 DB」( 1)】</p>

12	対象年度に売却した物件の総重量（推計値） 1 から当該物件の廃棄に伴う排出量を算定	廃棄物種類・処理方法別の排出原単位 3 【「外部公表 DB」( 1)】
13 ( 5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 船舶を除く、対象年度末時点でリース・割賦販売しており、かつ自社に所有権がある物件の購入金額から道外物件の稼働に伴う排出量を算定</li> <li>● 対象年度末時点でリースしており、かつ自社に所有権がある船舶の燃料消費量から船舶運航に伴う排出量を算定</li> </ul>	リース・割賦販売している物件の稼働時の排出原単位 2 燃料使用（燃焼）時の排出原単位 【個別資産のカタログデータ及び「外部公表 DB」( 1)】
15	政策投資株保有先企業が公表している GHG スコープ 1・2 排出量に当社出資比率を乗じて当社持分排出量を算定 6 ( 公表していない企業分は算定対象外)	-

( ) 注記

1. 環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース ( Ver.3.0)」、環境省「算定・報告・公表制度における排出係数 ( 燃料・電力)」、「その他 GHG protocol の Third Party Databases」を総称して「外部公表 DB」と記載。
2. リース・割賦販売している物件/売却した物件は多岐にわたるため、代表的な物件については仕様書等から個別に購入金額当たりの重量を推計の上、物件別の購入金額を購入金額当たりの重量に乗ずることで重量を推計、それ以外の物件については購入金額に代表的な物件の購入金額当たり重量の平均値を乗ずることで重量を推計した。
3. リース・割賦販売している物件/売却した物件の種類は多岐にわたるため、代表的な物件については個別に標準的な使用シナリオを設定し、使用シナリオ下での年間エネルギー使用量を推計の上、エネルギー別の排出原単位を乗じ、購入金額で除することで稼働時の排出原単位を推計、それ以外の物件の稼働時の排出原単位は代表的な物件の稼働時の排出原単位の平均値とした。
4. 売却した物件の廃棄時処理方法は不明のため、算定の保守性を考慮し全て焼却処理されるものと仮定した。
5. リース・割賦販売している物件のうち、自社に所有権がある物件の使用による GHG 排出量はカテゴリ 13 ( 下流のリース資産) に、自社に所有権がない物件の使用による GHG 排出量はスコープ 3 とは別に「当社投融資ポートフォリオ由来の GHG 排出量」に計上。
6. 株式投資由来の排出量と定義し、それ以外の船舶、リグ、航空機、不動産といった投融資先からの排出量は「投融資ポートフォリオ由来の GHG 排出量」としてカテゴリ 15 とは別に開示。

【投融資ポートフォリオ由来の GHG 排出量】

	算定方法	排出原単位 (データソースは【】内に記載)
投融資ポートフォリオ由来の GHG 排出量 ( 4 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年度末時点でリースしており、かつ自社に所有権がない船舶の船種・船型別の隻数</li> <li>● 対象年度末時点でリースしており、かつ自社に所有権がないリグに付属する発電機の年間消費電力量(推計値)</li> <li>● 対象年度末時点でリースしており、かつ自社に所有権がない航空機の年間飛行距離/年間旅客キロ(推計値)</li> <li>● 対象年度末時点でリースしており、かつ自社に所有権がない航空機エンジンを搭載する航空機の年間飛行距離/年間旅客キロ(推計値)</li> <li>● 対象年度末時点で出資している不動産の用途と延床面積</li> <li>● 以上より対象となる船舶、リグ、航空機、航空機エンジン、不動産の稼働に伴う排出量を算定、当社投融資シェアを乗じて当社持分排出量を算定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 船舶の船種・船型別の平均的な年間 GHG 排出量 【IMO「Fourth IMO GHG Study 2020」】</li> <li>● リグに付属する発電機の排出原単位 【JCM「CO2 emission factor of diesel engine」】</li> <li>● 航空機の飛行距離/旅客キロ当たり排出原単位 【ICAO「Carbon Emissions Calculator Methodology」及び個別機種のカタログデータ】</li> <li>● 用途別の不動産延床面積当たり排出原単位 【日本ビルエネルギー総合管理技術協会「建築物エネルギー消費量調査報告」】</li> </ul>

以 上